

「明日の人と動物の関係を考える研究会 ～IAHAIOフォローアップ・シンポジウム～」



主催：藍青会（元IAHAIO2007東京大会実行委員会）

日程：2009年9月13日（日）

会場：明治大学リバティタワー 千代田区神田駿河台1-1（御茶ノ水・新御茶ノ水駅徒歩5分）

参加費：一般3,000円、学生1,000円 懇親会参加費：3,000円

タイムテーブル

10：00～12：00（1階1011大教室）

基調講演「人と動物の関係～福祉の基盤に立って」

講師：ジェイムス・サーペル先生（ペンシルベニア大学教授）

13：00～17：00

合同セッション1（9階1093中教室）

「徹底討論～明日の人と動物の関係を考える」

パネリスト：サーペル先生、各団体の代表者

主催：公益社団法人日本動物病院福祉協会／特定非営利活動法人日本ヒューマン・アニマル・ボンド・ソサエティ／ヒトと動物の関係学会／ヒトと動物の関係に関する教育研究センター

合同セッション2（9階1094中教室）

「動物愛護管理法の改正に向けて～現行法の活用と限界」

パネリスト：行政代表、法律家、動物福祉団体代表

主催：動物との共生を考える連絡会（幹事団体：社団法人日本愛玩動物協会・社団法人日本動物福祉協会・社団法人日本動物保護管理協会・財団法人日本動物愛護協会）／特定非営利活動法人日本介助犬アカデミー／優良家庭犬普及協会

合同セッション3（9階1096中教室）

「子どもの教育と動物～動物介在教育発展の鍵は」

主催：特定非営利活動法人ひとと動物のかかわり研究会／日本動物介在教育・療学会／ヒトと動物の関係に関する教育研究センター

17：30～19：30

懇親会（23階サロン紫紺・岸本辰雄ホール）

お申し込み・お問い合わせ

下記までメールまたはFAXで、お名前、ご住所、電話、FAX番号、一般・学生の別、懇親会の参加の有無をお知らせください。お支払いは当日になります。

藍青会事務局 中西（公益社団法人日本動物病院福祉協会内）

TEL：03-3235-3251 FAX：03-3235-3277

e-mail：ranshokai@jaha.or.jp

藍青会（ランショウカイ）

藍青会はIAHAIO2007東京大会の実行委員会のメンバーが、日本で行った大会をそのまま終わらせることなく将来につながる活動をするために作った会です。

会長：正田陽一、幹事：中西悦子

会員：石田おさむ、太田光明、森裕司、細井戸大成、水谷渉、内山晶、山崎恵子、山口千津子、大野和彦、越村義雄、谷雅富、坂根弘



プログラム内容

基調講演「人と動物の関係～福祉の基盤に立って」

講師：ジェイムス・サーペル（ペンシルベニア大学獣医学部教授）

アメリカも日本も、今日では、イヌは家族の一員となっています。しかし、イヌがヒトと全く同等な扱いを受けているわけではありません。アメリカでは、イヌの安楽死は決して珍しいことではありません。どれほどの飼育イヌが不幸な一生を終えているのかその実数は明らかではありませんが、相当数になることは間違いのないでしょう。おそらく日本でも同様な状況であろうことは、容易に想像がつくことと思います。

家族の一員として一生を人並みに終えるイヌと余命を残してヒトに処分されるイヌとはどこが違うのでしょうか。

また、本来の寿命を全うするブタはほとんどおらず、われわれはブタの本来の寿命さえ知りません。ヒトと同じように一生を終えるイヌと途中で命を絶たれるイヌとブタで何が違うのでしょうか。この難題に以下の観点から考えてみたいと思います。

- 1) 命の違いはいつから - ヒトの命も同じではなかった？ -
- 2) キリスト教と仏教の違い
- 3) 普遍的な倫理感はあるのか？(いつの時代もヒトの都合次第)
- 4) 5つの自由

日本は憲法で戦争を放棄し、日本人が戦争に行くことはありません。しかし、アメリカでは、今も命を賭している軍人がいます。いつの時代であっても重要なのは命(の価値)について考えることで、答えを求めるとはなりません。

(講演内容は予定です)



James A. Serpell

ペンシルベニア大学獣医学部Humane Ethics and Animal WelfareのMarie A. Moore記念教授。Center for the Interaction of Animals & Societyのセンター長、Behavior and Human-Animal Interactionsのセクション・チーフを兼任。ケンブリッジ大学動物行動学科で数年間研究員として過ごし、臨床獣医学部ケンブリッジCAリサーチ・グループ上級研究員兼ディレクターに就任。前SAZ会長。

合同セッション1「徹底討論～明日の人と動物の関係を考える」

パネリスト：ジェイムス・サーペル、各団体の代表者

主催：公益社団法人日本動物病院福祉協会／特定非営利活動法人日本ヒューマン・アニマル・ボンド・ソサエティ／ヒトと動物の関係学会／ヒトと動物の関係に関する教育研究センター

ヒトと動物の関係学の本来の主題は、「動物の人の健康への影響」と「人と動物のより良き共生」です。それは、11回に及ぶIAHAIO国際会議の各テーマおよび発表された演題の内容をみれば明らかです。しかし、JAHAとHARSの取組みがこれらの課題に正面から取り組んできたように思えません。その結果として、いくつかの関連団体が新しく誕生しています。好ましい方向に向かっていいるとは思えないこの期に、現状認識と今後の取り組みについて徹底的に議論し、展望を開きたいと思えます。

サーペル先生は、来年の第12回IAHAIO国際大会(ストックホルム)で、次のIAHAIO会長に就任されることが予定されており、デニス・ターナー博士(現IAHAIO会長)と並んでこの分野を代表する研究者です。ターナー博士の後を継いで、やや目標を失った感のあるIAHAIOをどのように活性化させていくのかを語っていただきます。またJAHAとHARSの代表者には、IAHAIOのナショナルメンバーとして、わが国のヒトと動物の関係学をどのように発展させていくのかについて語っていただきます。

第1部：「ヒトと動物の関係学」加藤元／太田光明(座長：細井戸大成) 13:00～14:00

第2部：「サーペル先生の目指すもの」(座長：太田光明) 14:10～15:30

第3部：「IAHAIOとJAHAとHARSの役割」(座長：森裕司) 15:40～17:00

IAHAIO代表：ジェイムス・サーペル／JAHA代表：柴内裕子／HARS代表：石田おさむ

合同セッション2「動物愛護管理法の改正に向けて～現行法の活用と限界」

パネリスト：行政代表、法律家、動物福祉団体代表

主催：動物との共生を考える連絡会(幹事団体：社団法人日本愛玩動物協会・社団法人日本動物福祉協会・社団法人日本動物保護管理協会・財団法人日本動物愛護協会)／特定非営利活動法人日本介助犬アカデミー／優良家庭犬普及協会)

動物の愛護と管理に関する法律の改正の時期が迫っている中で、何をええればよいかという議論が交わされるようになってきました。しかし、現行法の限界に関する突っ込んだ議論がまだまだなされていないのではないのでしょうか？現在の法律の中に定められている様々な事柄が十分に守られているのでしょうか？守られていないのであれば、今の法律をしっかりと活用するためには、何が必要でしょうか？

改正に向けて準備をすることは極めて重要なことですが、現行法が遵守されるようなシステムを作り上げることがまず優先されるべきではないのでしょうか。

このような点を行政、司法、そして動物福祉活動の視点から論じます。

合同セッション3「子どもの教育と動物～動物介在教育発展の鍵は」

主催：特定非営利活動法人ひとと動物のかかわり研究会／日本動物介在教育・療学会／ヒトと動物の関係に関する教育研究センター

教育学に偏らず多分野の学生、研究者、そして動物介在教育に取り組む方々と「動物を介在させた人間関係を築く基礎となる力の育成」について考えることを目的に計画致しました。

東京都の教育ビジョンの中で「学校に期待される役割」として「人間関係の基礎を習得する場」が提示されています。人間関係を築く基礎となる力とは何でしょうか。私たちは、それを解く鍵が「子どもの自尊感情を育む」ことであると考えました。

昨今、動物の教育効果が注目され、学校飼育動物、動物介在教育、ヒューメイン・エデュケーションと「動物を介在させた教育」が学校教育の中で展開されるようになりました。動物を介在させる教育活動の効果として、非言語コミュニケーションスキルの獲得、自尊感情の向上や他者への思いやりが注目されています。

そこで、話題を提供していただく先生方には、「子どもの自尊感情を育む」「他者への思いやり」をキーワードにお話いただき、参加者の皆様と「動物介在教育の発展に向けての提言」を構築したいと思います。

IAHAIO (International Association of Human-Animal Interaction Organizations) とは「人と動物の関係に関する国際組織」でこの分野における国際的な連合体です。

